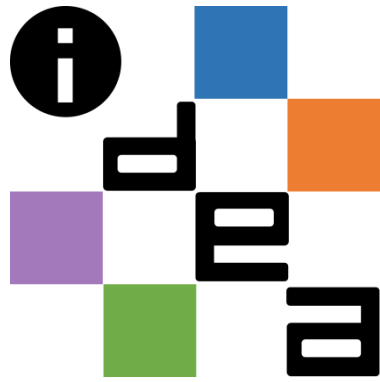


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2017

5月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|--------------------|
| 2 | 二言三言 | 1万人に生き方のメッセージを届けたい |
| 4 | 団体紹介 | 大橋一座(大橋の会) (川崎) |
| 5 | 地域紹介 | 千厩 木六自治会 (千厩) |
| 6 | 企業紹介 | 株式会社 京屋染物店 (一関) |
| 7 | センターの○○ | センターの自由研究 屋根の調査 |

1万人に生き方のメッセージを届けたい

対談者 中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会 代表 吉田恵子さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

周りに背中を押されてスタート

テノール歌手の新垣勉さんは、生後間もなく不慮の事故で両目を失明し、両親の離別により祖母に育てられましたが、14歳の時に祖母がなくなり天涯孤独の身となりました。その後音楽の道に進み、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えながら、未来を担う青少年たちに「オンリーワンの人生を大切に」「あなたは素晴らしい存在」と呼びかけるコンサートを展開しています。中学2年生の英語の教科書（NEW HORIZON）に新垣勉さんの半生が掲載されており、中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会では、「教科書に載っている人に実際に出会わせたい」という思いで「中学2年生に贈る新垣勉おしゃべりコンサート」を始めました。（※現在、一関市ではNEW HORIZONは使用していません。）

【小野寺】コンサートは今年で7回目となりますが、改めて、吉田さんと新垣勉さんの出会いを教えてください。



中学2年生に
新垣勉
コンサートを贈る会
代表 吉田恵子さん

【吉田】20年以上前、新垣さんから「どこにでも行きますので呼んでください」というハガキが協会に届きました。当時は会員も少なく自分達には無理と諦めました。その後、息子の英語の教科書に彼が載っていることを知り、文章を読んだら感動しちやって。「授業で彼のことを習うなら本人に会わせたいな」と考える

ようになったんです。それを、私の友人や仕事でお世話になった事務長さんに相談したら「協力するよ」「やってみなさい」と言って、力になってくれそうな方も紹介してくれました。私はやりたかったけれど自信がなかったので、「やめた方がいい」と言われることを期待して相談したのですが…。

【小野寺】期待に反し、逆に後押しされちゃったんですね。



【吉田】はい。そういう支援をいただく中で、2010年に千厩中学校でコンサートが開催されることになりました。千厩文化教育振興会の事業で彼を呼んでくれて、私はその時に初めて新垣さんと会い、自分の想いを伝えたんですよね。コンサートには外部からも70人以上の方が来られて、皆、涙涙の感動の渦がそこにあって。「すごいな、やっぱりこの人だ」と思いました。その時に「市内の全中学生に聞かせたい」という気持ちますます強くなったんです。

【小野寺】その時にミッションに変わったんですね。

10年一区切りという考え方で

【小野寺】コンサートは、吉田さんが想いを描いて、そして実際に動いたというのがすごく大きいと思います。吉田さんが「やる」という一言を言ったから周りが動いたし、協力する人が集まってきたんですね。

今の実行委員会を維持する大変さとか、巻き込みを広げていこうと思うことはありますか？

【吉田】どこでも同じだと思うんですけど、世代交代というのはすごく難しいと思っています。新垣さんの年齢もあります、私たちも年をとりますから永遠には続けられませんよね。「無理をさせたら続かない」ということは当初から思っていました。だから「できる人ができる時にできることをしよう」をコンセプトにやってきました。6年間で人の入れ替わりはありましたが、必要な時に必要な人が現れてその都度助けてくれました。皆さんのおかげで6回もコンサートを開催できたことは本当に感謝です。

【小野寺】最近「10回までコンサートをやる！」が皆さんの合言葉になっていますよね。

【吉田】ええ。1回目から千人以上の子どもたちがコンサートに来てくれたので、10年続けたら1万人の子ども達にメッセージが届くことになりますよね。このメッセージが子ども達の心の宝物となって彼らをずっと励まし続けてほしいと願っていますし、彼らが大人になったときによりよい地域社会をつくってくれるのではないかと期待もしています。

【小野寺】10年一区切りという考え方はいいかもしれませんがね。世代交代までしてずっと続けていかなければいけないかといったら、伝えてもらいたい新垣さん自身も年をとりに来られなくなる状況もありますし、新垣さんの代わりになる方を探して同じようなことをしようとしても、人が変われば伝えるメッセージも変わるでしょうから。皆さんとしては、10年で1万人の中学二年生に伝えるというところが大きな目的なんじゃないかな。



新垣さんの美しい歌声が会場全体を一つにします

辛くなった時は初心を思い出して

【吉田】一番苦しかったのは3回目でした。今は地域経済もよくないので、お店とかに断られることもあり、怪しまれたりして辛い時もありました。そういう中で「このコンサートをどういう風にしていこうか」と悩みや迷いが出てきて、それを10年もと思うときつか

ったですね。でも実行委員会の仲間が「ここを乗り越えたら大丈夫だから頑張ろう！」と何度も励ましてくれました。

その時に、私が最初に「こんなコンサートをしたい」と夢を描いたプレゼンがあったので、それをもう一度皆に見てもらって気持ちをリセットしたんです。それで「やっぱり頑張ってみよう」という気持ちになり、それからもう迷いはなくなりました。

【小野寺】すごくいいお話ですね。今振り返ってみると、6年間で色々なドラマがありましたよね。

【吉田】1回目のコンサートには、一関市内の各中学校に招待状を出しましたが、来てくれる学校があるかどうか分からなかったの、「1校でも来てくれたらコンサートをやろう！」という気持ちでいました。一番に参加の返事をくださったのは中里中学校さんからでした。その時はもう嬉しくて飛び上がって喜びました。その後にも各中学校から参加の連絡があり、結果的には1,000人を超える生徒さんが来てくれたんですよね。

それぞれが「気づき」を持ち帰る

【吉田】新垣さんは障がいをもっていますが、子ども達は「障がい者＝何もできない人」みたいなイメージを持っているようです。でもステージ上で新垣さんが一人、堂々と美しい声で1時間以上歌を歌い、お話を織り交ぜながらコンサートを仕切っている姿を見て、「障がいがあってもできるんだ」とか、障がい者に対する自分の考えを顧みて「自分が本当に情けない」という感想を言う子もいました。また、彼の生い立ちを聞いて「自分も頑張ろうと思った」とか、「このコンサートに来るか来ないかで今後の人生が変わると思う」という感想もありました。

コンサートに来た子全員とは言いませんが、その子その子に必要なメッセージを受け取っているということが凄いなと思います。

【小野寺】毎年、聞きに来る子が違いますが、その子によってどんなことを感じたのか知るのも皆さんの楽しみですよ。7回目のコンサートは平成29年11月7日に予定していますが、中学2年生だけでなく、一般の方にもぜひ来てもらい新垣さんの歌声を聞いてもらいたいですね。

基本情報

【中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会】

〒029-0803 一関市千厩字前田 90-13

電話&FAX:0191-52-2064

携帯:090-5231-4333(吉田)

団体 紹介



座長 伊藤節子さん

～基本情報～

- ◆座長：伊藤節子 さん
- ◆連絡先：〒029-0202
一関市川崎町薄衣字鴨地 19
- ◆電話：090-4552-6581
- ※連絡先・電話ともに伊藤節子さん宛

原動力は「地域のために何かしたい」という想い

一座の名付け親は地域の方

「地域のために何かしたいと思ったの」。そうほほ笑むのは、川崎を拠点に活動する股旅舞踊とマドロス舞踊の団体「大橋一座」座長の伊藤節子さんです。侍の衣装で笠や刀を使い踊る「股旅舞踊」や、船乗りの踊り・「マドロス舞踊」といった“新舞踊”は青森県十和田市が先駆けといわれ、演歌や歌謡曲に合わせて誰でも自由に振り付けできる気軽な踊りとして、第二次世界大戦以降に庶民の間で流行。今では各地に流派があり、年配の方を中心に広く親しまれています。

伊藤さんがこの新舞踊に出会ったのは今から6年前。金成で開催された芸能発表会で子どもの股旅舞踊を見たことをきっかけに踊りを始め、少しずつ口コミや知人の紹介で敬老会やお祭り、介護福祉施設などに呼ばれ人前に立つことが増えていきました。

踊りを始めて2年目、花泉町老松地区福祉推進協議会主催の一人暮らしの高齢者を対象とした交流会で踊ったところ、お客さんから「会の名前をつけたい」と提案があり、“人々を繋げる北上大橋のように、芸を通じて人々の心に染みるよい踊りを踊れるように”と願いを込めて「大橋一座」と名付けられました。平成25年1月27日の命名式で受け取った命名書は、額縁に入れられ、宝物として大切に保管されています。

チャリティーショー開催の喜びと悩み

同会では、平成27年5月に川崎地域の活性化を目的としたチャリティーショーを開催。このショーには、県内、青森、宮城県から23名の踊り・歌い手が出演し全41曲を披露。市内外から400名を越える観客が集まり、入場料から得た収入の一部を市に寄付しました。伊藤さんは「お客さんの喜ぶ顔が見れたり、『来年もや

ってね』なんて声を貰えると嬉しい」と語る一方、開催に至るまでには課題もありました。

「股旅は家族を捨て家出した男、いわゆるヤクザ踊りだから、川崎から不良を出したくないという理由で最近まで禁止されてたし、踊りに刀を使うことも危ないからと反対されました。でも何とか説得して許しを得たんです」と話し、また「ショーには市内で活動するほかの会の方にも出てもらい連携したい気持ちもあるけど、流派の壁や各々の考えがあり難しい。反発を受けることもあるしね。活動に理解をいただくためにも、ショーの開催を継続することが大切だと思います」と続けました。

お客さんの心に響く踊りを

ショーのチケット販売や周知は同級生や地元企業さんに協力いただきながらも、事務局や各種手配・連絡などは自身が中心となり動いている伊藤さん。その原動力をお聞きすると「自分でもよくわからないけど、川崎のために何かやりたいという気持ちかな」と笑顔で答えていただきました。

「前に私が舞台上で踊った時、4歳の女の子が『感動した』と涙を流しながら踊りを見ていたことがありました。よほど感受性が豊かな子なんだなと驚いたけど、自分が無心になって踊ることで人の心に響くものがあるんだなと嬉しくなりました」と印象深い出来事を語る伊藤さん。「地域の皆さんの笑顔や応援が活力になっています。ショーの開催は、協力し関わってくださる皆様のお力添えがあつてこそ」と感謝の言葉で締め括りました。



今年のチャリティーショーは
10月22日に開催します

地域紹介



木六自治会の皆さん
(地区民運動会で優勝した時の記念写真)

～基本情報～

- ◆自治会長：村上敬一さん（1期2年目）
- ◆千厩町の東部に位置する木六自治会には51世帯約190人が暮らしています。千厩地区では一番小さな自治会ですが、住民みんなでまとまり、地区民運動会などの行事でも活躍しています。

ずっと自信を持って暮らし続けられる故郷をつくる

小さくてもみんなが誇りに思える地域に

木六自治会は、昭和62年に当時の部落会を中心に各団体を集約する形で発足。千厩のまち寄りに家を作る人や団地に入る人が増え、発足当初42世帯だった世帯数は51世帯まで増えました。「それでも千厩地区の中では一番規模が小さくて昔は木六という名前を出すのが恥ずかしいという人もいたけれど、いろんな活動を通じて自分達が暮らす地域に自信と誇りを持てるようになってきた」と話すのは自治会長の村上敬一さん。

村上さんは、発足当初から事務局を務め、副会長を経て、昨年度から自治会長になりました。「長年自治会運営に携わっていると、自分で計画した活動に幕を引く辛さを感じることもあるが、たくさん行事を並べても仕方がない」と話す村上さん。地域がまとまる工夫や時代の変化に合わせて変えること、自治会活動を通じた課題解決に向けた取り組みについてお話いただきました。

地域のまとまりは普段のコミュニケーションから

地区の運動会で優勝などの成績を残している木六自治会。そのまとまりのよさは、普段の活動が支えています。特に力を入れているのは環境保全活動で、管理委託を受けている農村公園や道路の清掃、班ごとに毎月交代で行う自治会館の清掃にはほとんどの世帯が参加し、平成19年には自治会内に24時間利用できる資源回収ステーションを建て、リサイクルしたお金を自治会の活動資金にしています。

参加促進のポイントとして「小まめな宣伝に手を抜かない」と話す村上さん。行事の際にチラシを作って配布する他、清掃活動に集まった際に、行事の伝達をしたり、意見を聞くなど情報交換の場にするすることで、人が集まる機会を無駄にせずコミュニケーションを取るようになっています。

また、将来的な地域運営を見据え、同じ行政区内の

北の沢自治会や様々な企業と協力し合って新年会などの行事を行い、交流や連携も深めています。

歴史を辿り、これからの地域を考える

木六自治会では、地域がまとまる新たな活動として、平成27年度から地域内のミニ文化遺産を巡る「健康ふれあいウォーク」に取り組んでいます。自分達が暮らす地域の歴史を見直し、拠り所として整備していこうと企画し、初回から40人が参加しました。自治会内で歴史や文化の研究をしている人や一関市博物館の学芸員にも協力してもらい、木六の歴史を学びながら、由緒ある神社から変わった形の石などユニークなものまで様々な地域資源の探索を楽しんでいます。

「それぞれの由来などがまだ点の段階だが、これから線にしていくことで木六の歴史が浮かび上がり、何を保存すべきか見えてくるはず。地元の宝をみんなで支えて心の拠り所にしてほしい」と話す村上さん。活動の中で作成したマップを地区民祭で展示したところ「うちでもやってみようかな」と他の自治会からも反響があったそうです。

最後に村上さんから「兼業農家をやめる人も出てきて、昔のように農業という1つのテーマで地域がまとまるのは難しくなってきた。少子高齢化で組織を維持するのも難しくなるが、決して悲観せずに次のアイデアを考えたい。小さな集落でも自分が生まれ育った故郷は変えられないので、少しでもよくしていくために、歴史・福祉・環境整備の3本を活動の柱として、お互いに助け合える地域になっていければ」と時代の変化を感じながらもこれからの地域への前向きな言葉をいただきました。



ふれあい健康ウォークの様子

企業紹介



代表取締役 蜂谷 悠介さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：蜂谷 悠介さん
- ◆連絡先：〒021-0884
一関市大手町 7-28
- ◆電話：0191-23-5161
- ◆FAX：0191-23-3660
- ◆HP：<http://www.kyo-ya.net/>

伝統の中にも今の時代に合わせた工夫を重ね継承する

家族での運営から地域企業へ

株式会社京屋染物店（以下同社）は、大正8年に創業し、平成25年に法人化しました。染物屋は岩手県内でも数軒、市内では2軒のみと大変希少な業種。

創業当初は家族での運営でしたが、現在は従業員12名で、デザインから染め作業、縫製を一貫して行っている全国的にも数少ない染工場です。

今回は、染物を通じて日本文化の継承と新たな可能性の創出に貢献できる染物屋を目指している同社代表取締役の蜂谷悠介さんから起業背景や市民と企業が直接触れ合える企画（染物体験等）の開催についてお話を伺いました。

奇跡的な出会いから生まれた一関の染物屋

同社の初代は、15歳で単身京都に向かい友禪染の修業をした後、地元一関大手町に染物屋を創業しました。「私の曾祖父である初代は、少年期に檀家である龍澤寺の門前で絵を描いていたところ、住職に絵描きの才能を見いだされたそうです。その後、得意なことを活かせる事を模索していた曾祖父は、ご近所の方々からご支援をいただき京都行きの片道切符を握りしめ京都へ向かったと聞いています。当てもなく知り合いもないという状況の中で、腹を空かせて困っていた曾祖父に声をかけてくださった男性が染料会社社長だったそうです。そして、その方の取引先である友禪染物屋を紹介され、曾祖父は10年間修業を積みました」と、曾祖父が起業するきっかけとなった奇跡的な出会いを蜂谷さんは熱く語ります。

初代が地元に戻り染物屋を創業した大正8年の大手町は若旦那衆や芸者が行き来する花街で、料亭や髪結い処が立並び、着物文化も発展していたため染物業の需要も高くなじみ客も多かったのだとか。その後、二代目は時代のニーズに合わせて、染物業の他に京都などから着物を仕入れ、行商して歩くというスタイルを取

り入れ、三代目の時に現在の工場の原型が創られました。「友禪染が全体的に落ち込んでいたことも重なり、着物以外の半纏やのれん、幕や旗などの染物を進化させるべく『しっかりと工場モノづくりができるような体制を整えたい』という父の考えで現在に至ります。平成22年、父が突然の病に倒れ、平成25年に法人化し半人前の私が四代目となりました。ちょうど弟も大学を卒業しUターンしてきたばかり、私は不安でいっぱいでしたが歴代が残してくださったお客様に育ててもらいながら兄弟二人で今の時代のニーズに合った染物屋になれるよう試行錯誤を重ねてきました。曾祖父や祖父、父は人のつながりという大きな財産を残してくれたんです」と熱い思いがこみ上げた様子で当時を振り返ります。

体験を通し多くの人に知っていただく

同社では、多くの市民に染物に親しんでもらいたいと体験教室などを開催し広く情報を発信しています。

また、受け入れ時期にもよりますが、子ども会行事などへの出張藍染体験も可能とのことです。

取材に伺った日は「来て・見て・発見一関おもしろ館実行委員会」主催の小学生春休み体験バスツアーの受け入れを行っており、市内小学校4年生以上の児童が同社染物工場内で藍染の体験や工場見学、職人さんによる染め加工技術を学んでいました。輝いた顔で染物体験をしている子どもたちをさらに輝いた顔で指導している蜂谷さん。

「この子どもたちが、胸を張って一関を自慢できるように、染物を身近に感じる魅力的でオープンな環境をつくっていきたいですね」と笑顔で語っていただきました。



藍染体験を指導する蜂谷さん（中央）と熱心に耳を傾ける市内の子どもたち

センターの ○○!

調査のきっかけ

毎月、各市民センターや地域各所を訪問しているスタッフたち。最近では特集を企画するにあたり、地域独自の風習や文化などのさまざまな調査にもご協力いただいております。

さて、今回は訪問先の千厩町の方からこんなお話を伺いました。「大東町内の屋根って特徴的ですがごく立派なだけ、なにか理由があるの？」この疑問にお答えすべく、さっそく大東地域に向かい聞き込み調査をしてきました。

大東町の屋根の形

市内でも家全体を覆い被すような屋根はよく見かけますが、大東地域では写真①のように、^{ホウギ}方形と呼ばれる形状の屋根の上に小さな屋根や長い棒のような立派な飾りがある特徴的な屋根をあちらこちらでよく見かけます。

調査の結果

今回この調査にご協力いただいたのは大東町曾慶地区の岩渕さんです。立派な屋根についてお伺いすると、「数十年前に町内で**茅葺き屋根のリフォームが流行って**、我が家でも茅葺の上にトタンを被せただけ。普通だと思うよ」とのこと。屋根の上の小さな屋根については、岩渕さん曰く「屋根は家の顔だから『**見た目がいい**』という理由で**茅葺き屋根時代の煙出し窓を残した**」そうです。(写真②参考：煙り出し窓)

ではなぜ大東町内にはこのような屋根が多いのか、同じく曾慶で大工さんをしている佐藤さんからお話を伺うと、「**当時、大東にきていた業者さんが胆沢（現奥州市）の人**でね、この形が流行りだったんだね。『なぜこの形なのか?』と聞かれると今までそんなふう感じたことなかったから、考えたこともなかったね」との回答。ちなみに、佐藤さん宅も同じように屋根の上には煙出し窓を活かした飾りがあるそうで、「だいたいおんなじ時期ぐらいにリフォームしたから大東町内には同じような屋根が多いんじゃないかな?ほかの地域からは『特徴的な屋根』と思われていたんだね」と岩渕さんも佐藤さんもビックリしている様子でした。

確かに写真③のように、大東町内にはこの形の屋根をたくさん見かけるため、なにか由緒ある屋根の形なのかと調査をすすめてみましたが、以外にも結果は「**当時流行った、屋根をカッコよく見せるための飾り**」ということでした。



写真①大東曾慶地区の岩渕さん宅



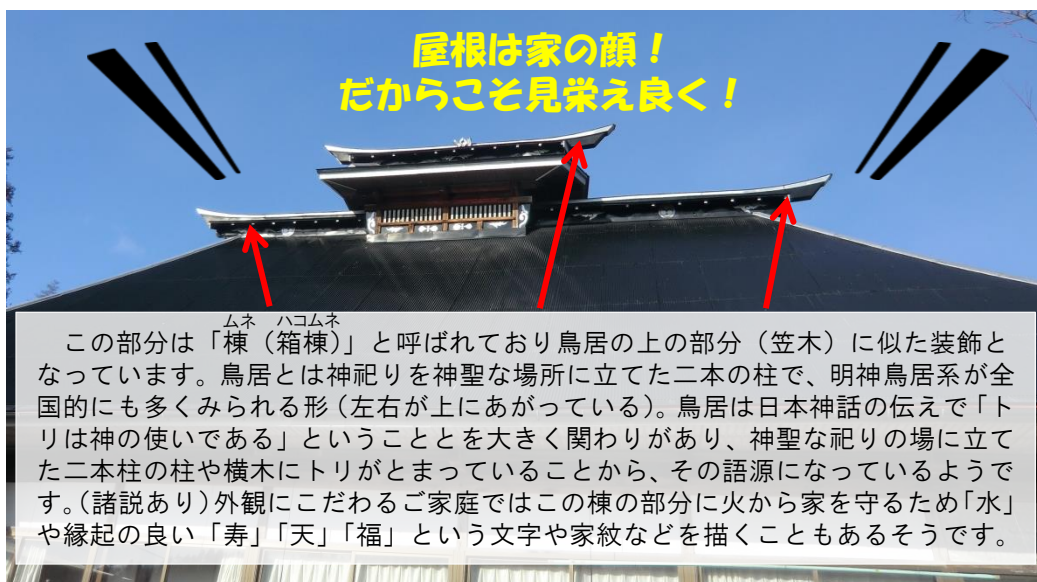
写真②藤沢砂子田地区の時田さん宅



写真③大東町渋民地区の屋根



写真④屋根の内側



屋根は家の顔!
だからこそ見栄え良く!

この部分は^{ムネ ハコムネ}「棟（箱棟）」と呼ばれており鳥居の上の部分（笠木）に似た装飾となっています。鳥居とは神祀りを神聖な場所に立てた二本の柱で、明神鳥居系が全国的にも多くみられる形（左右が上にあがっている）。鳥居は日本神話の伝えで「トリは神の使いである」ということとを大きく関わりがあり、神聖な祀りの場に立てた二本柱の柱や横木にトリがとまっていることから、その語源になっているようです。（諸説あり）外観にこだわるご家庭ではこの棟の部分に火から家を守るため「水」や縁起の良い「寿」「天」「福」という文字や家紋などを描くこともあるそうです。

ちなみに・・・

写真②の茅葺き屋根には、小さな屋根「煙出し窓」がついています。この役目は、文字通り煙を外に出すための換気口にあたるもので、囲炉裏の煙を排出させるための小窓です。

岩渕さん宅でも、昔は囲炉裏があったそうですが、屋根のリフォームと同時に家の中もリフォームし天井は塞いだため、煙出し窓としての本来の機能はしていません。

おしらせ

一関 さくらなみき自閉症美術館 企画展
Respite House HANDS

特定非営利活動法人レスパイトハウス・ハンズの利用者さんの作品展を行います。館内にて「さくらなみきオリジナルブレンド」のドリップコーヒーを100円でお楽しみいただけますのでぜひご利用ください。

【期間】平成29年4月11日(火)～平成29年6月25日(日)

【場所】さくらなみき自閉症美術館(月曜・祝日休み)

【料金】入館料無料

【問合せ】0191-48-3622(場所と同じ)

一関 まちの保健室

岩手県看護協会では、血圧やBMI測定、体や心に関する悩みを無料でお聞きするまちの保健室を毎月開催しています。保健師、助産師、看護師OBのスタッフが優しくお応えしますので、お気軽にご利用ください。

【日時】平成29年5月6日(土) 13時30分～15時30分

【場所】いちのせき市民活動センター内

【料金】無料

【問合せ】0191-26-6400(場所と同じ)

一関 第49回子どもの森

昔遊びや巨大迷路、竹馬などの遊びで楽しく交流する「第49回子どもの森」を開催します。親子で楽しめるコーナーを多数ご用意しておりますので、お気軽にご参加ください。※当日児童と遊んでいた**だくボランティアも募集しています。**

【日時】平成29年5月14日(日)10時～

【場所】山目市民センター

【料金】参加料無料

【持物】お弁当、水筒、中ぐつ

【問合せ】0191-23-9721(橋本)

一関 ヨソモノさんいらっしやい「ヨソモノさん MEET+ING」

他の市町村から一関市へお越しいただいた方(ヨソモノさん)同士で、楽しく一関を語りませんか?3回シリーズの第1回目は、ヨソモノさん目線の一関の暮らし「あるある」を共有する座談会を行います。※5月17日(水)までに下記問い合わせ先まで申し込みください。

【日時】平成29年5月24日(水)19時～21時

【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室

【料金】1,000円

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

藤沢 ふれ愛婚活 in 館ヶ森アーク牧場

自然の中で行うBBQや動物とのふれあいを通して素敵な出会いを体験しよう!25歳～45歳までの独身男女各30名を募集します。(特に女性のご参加をお待ちしています。お誘い合わせの上お申し込みください)※参加申込は、5月14日(日)までに下記問い合わせ先まで。

【日時】平成29年5月27日(土)9時～15時

【場所】館ヶ森アーク牧場

【参加費】男性4,000円 女性2,000円 ※体験料、BBQ、餌代込み

【問合せ】0191-48-4677(ファンスポルト一関)

一関 まちづくりコーディネーター養成講座

地域づくり活動における基本的な考え方や進め方、知識を身につけて、まちづくりコーディネーターになろう!①地域づくり概論②話し合いの仕方③事務局運営④情報発信の全4回講座です。※各回1週間前までにお申し込みください。

【期日】①平成29年6月10日(土) ②6月24日(土)③7月1日(土) ④7月22日(土)

【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室

【参加料】2,000円(全4回分)

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

千厩 ミュージックパーティー vol.3

佐藤篤子さん(ソプラノ)、古橋郷平さん(テノール)、千葉裕之さん(ヴァイオリン)、千葉祐佳さん(奥玉出身/電子オルガン)での音楽パーティーを開催します。今回は「花」をテーマに、花にまつわる名曲の数々をお贈りします。

【日時】①平成29年6月16日(金)18時半開演 ②平成29年6月17日(土)14時開演

【会場/チケット取り扱い】マリアージュ

【料金】チケット2,000円(税込・全席自由) ※小学生以下無料

【問合せ】090-9635-5820(千葉)

全域 「イマカラ」登録者募集

いちのせきの市民活動スタッフバンク、通称「イマカラ」は、一関市内で開催されるスタッフを募集したいイベントと地域で活動したい人をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページから無料のスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報を随時メールにて発信します。※登録は18歳以上の方で居住地は問いません。

【問合せ】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

一関 「姿勢講演会」の開催先を募集しています

姿勢の歪みは腰痛肩こりなどの不調を招くばかりか、ストレスや集中力が欠けるなど精神の不調、自立神経の不調の原因にもなりかねません。正しい姿勢を身につけて健康を手に入れるため、「姿勢講演会」を開きませんか?お気軽にご相談ください。

【講演担当者】健康科学博士、姿勢科学士など

【講演料】随時相談(啓蒙活動促進のため、基本的には依頼元の規定・要望に準拠)

【問合せ】0191-48-3710(KCSセンター一関)

今月の表紙



4月14日の「釣山公園桜のライトアップとぼんぼり点灯式」の1コマ。餅振舞など協賛イベントも行われ、大勢の人がカウントダウンに参加。ライトアップされた桜はまた格別です。釣山から見える眺望と併せてぜひその目でお確かめ下さい。

Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 助成金の申請書を書くときのポイントを教えてください①

A まずは自分が行いたい事業と目指す将来像(目的)が助成金提供者の目的・ねらいと合っているかを確認しましょう。審査では、過去の実績や苦勞話よりも、先駆的か(既存事業の繰り返しになっていないか)、社会・地域にどのような効果があるかということが評価のポイントとなります。継続事業を発展させるには、「これまでとの違い」や「進歩」を見せる必要があります。